

# 科学よもやま話

## 第5回 議定書とプロトコル



佐藤勝昭

今回お届けするスケッチは、おなじみのパリの凱旋門です。この絵を描いた日はたまたま第2次世界大戦の終戦記念日（戦勝記念日）で、凱旋門には大きな三色旗が掲げられ、シャンゼリゼ通りも旗で埋め尽くされていました。

凱旋門の構想を立てたのは有名なナポレオン（ボナパルト）で、彼が成功の絶頂にあった1806年のことです。しかし、凱旋門が完成したのは、ナポレオンの死後の1836年のことでした。皮肉なことに、1814年にナポレオンは大敗を喫し、エルバ島に流刑になりました。この年、列国とルイフィリップ王との間で結ばれたのが第1次パリ条約でした。

パリ条約という名称は、これだけでなく、スベ



戦勝記念日(5月8日)のパリ凱旋門 佐藤 画

イン・イギリス7年戦争後の1763年、米国独立戦争後の1783年、クリミア戦争後の1856年、米西戦争後の1898年、第2次世界大戦後の1947年など多数見られます。パリは、条約だけでなく、議定書という国際的取り決めの開催地としても歴史的な舞台を提供してきました。パリ議定書としては、1994年パレスチナとイスラエルの間に結ばれたものが有名ですが、ラムサール条約実施のためのパリ議定書（1982）もよく知られています。

さて、「議定書」という言葉ですが、2005年地球温暖化防止を取り決めた京都議定書が発効したことで巷に知られるようになりました。議定書のことを英語でプロトコル(protocol)といいます。プロトコルというと、読者は、IP(インターネット・プロトコル)や、FTP(ファイル・トランスファー・プロトコル)など、ネットワークを介してコンピュータ同士が通信を行なう上の通信手順、通信規約をまず思い浮かべるでしょうが、語源は上に述べたような国際的な取り決めにあつたのです。

プロトコルに限らず、一般にコンピュータ用語は、サーバ、アクセス、ブラウザ、パケット、タグなどのカタカナ書きの外来語が使われるため、「コンピュータはむずかしい」と初学者に敬遠される原因になっています。しかし、もとの意味は、それぞれ、給仕人、入手、本の拾い読み、小包、名札というような日常用語なので、英語圏の一般人にとってコンピュータ用語の壁はあまり高いものではありません。わが国においても、日常の日本語がコンピュータ用語として定着する日が来るとよいのですが。

(東京農工大学 副学長)